

目次

- 新コース VMware vSphere5 : What's New
ITシステム仮想化基盤 (ストレージ編)
- セミナー クラウド時代の人材育成最新動向セミナー
- トピック Inst. Tech View ~第13回 “プレゼンテーションTIPS ツール編” ~
- コラム スーパーエンジニアの独り言
第11回 “ライク・ア・ローリング・ストーン”

新 | コ | ー | ス | リ | リ | ー | ス

◆◇ VMware vSphere5 : What's New ◇◆

「VMware vSphere5 : What's New」コースは、VMware vSphere4.1と5.0との差分を紹介する2日間コースです。
vSphere5.0では、多くの新機能が追加されています。
ここでは、その一部をご紹介します。

●ストレージDRS

複数のストレージをグループ化する機能です。
これにより、複数のストレージ間で仮想マシンファイルの初期配置と負荷分散を自動化できます。

●vCenter Server アプライアンス

LinuxベースのvCenter Server仮想マシンです。
従来のWindowsベースのvCenter Serverと比べて、シンプルな導入方法と低コストを実現できます。

●vSphere HA

vSphere5.0では、vSphere4.xまでのHA(旧名:VMware HA)とアーキテクチャが大きく異なっています。
アーキテクチャが見直されたおかげで、容易な構成と、信頼性の高い障害検出が実現できます。

●Auto Deploy

自動的にESXiホストを展開する機能です。
Auto Deployを使用することで、物理サーバに触れることなく(ゼロタッチ)ESXiをインストールしてvCenter Serverに追加できます。
ホストプロファイルと連携することもできるため、大量のESXiホストを迅速に展開することができます。

この他にも多くの新機能や強化された機能を、弊社トレーニングセンター内に設置された豊富なラボ機材を使用して実践できます。

VM08

VMware vSphere : What's New [V5] (試験バウチャーなし)

2日間 ¥155,400 (税込)

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=711&m=11182&v=d37a1354>

VM08V

VMware vSphere : What's New [V5] (試験バウチャー付)

2日間 ¥172,200 (税込)

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=712&m=11182&v=e697a507>

◆◇ ITシステム仮想化基盤 (ストレージ編) ◇◇

ストレージを体系立てて勉強したい、ストレージの担当をする事になった、ストレージを何となく使っている、ストレージの話になると弱い…そんな方、いらっしゃいませんか？ そんな方にお勧めしたいコースが、弊社オリジナルコース「ITシステム仮想化基盤 (ストレージ編)」です。

本コースは、ストレージの導入・運用などの実経験を基にした、CTCTならではのポイントを押さえた章構成です。
そのため、2日という短期間で、ストレージの概要から最新の技術動向まで、広く深く学習可能です。
また、RAIDの設定やLUNの作成、PCへのストレージ割り当てや冗長化の設定など、様々な演習も用意されています。

特定のベンダーに限定されない、本当に使えるストレージ知識が身につきます。
また、仮想化環境でストレージを使用する事を想定した内容も含まれているため、VMware、Citrix、Hyper-Vなどの運用管理を行う方にもお勧めです。

最新技術を盛り込んで、2012年5月にリニューアルしたばかりのコースを是非ご受講ください。

IT400

システム・仮想基盤構築トレーニング(ストレージ分野)

2日間 ¥94,500 (税込)

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=713&m=11182&v=431c3509>

セ ミ ナ ー _____

◆◇ クラウド時代の人材育成最新動向セミナー ◇◇

2012年06月12日(火)、キヤノンビズアテンダ株式会社と共同開催による『クラウド時代の人材育成最新動向セミナー』(無料)を開催致します。

人材育成担当者様向けにクラウド時代の技術者育成に必要なスキル解説や、若手技術者のスキル強化に効果的な研修のご紹介を致します。
是非、この機会に本セミナーにご参加いただき、各社様の社員教育ならびに人材育成にご活用ください。

セミナー詳細はこちら

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=714&m=11182&v=8d4cc9a1>

《第1部》「クラウド時代に必要なスキルと取り巻く環境」

担当講師 : 藤江 一博

(CTCテクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部)

●注釈の追加

画面に矢印や線などの注釈を付けたい場合は「描画モード」を使用します。描画モードに移行するには以下の2つの方法があります。

1. Ctrl+F2 (画面を拡大せずに描画)
 2. 画面の拡大 (Ctrl+F1) 中に、左クリック (画面を拡大した状態で描画)
- なお、描画モードでEscキーを押下することで通常状態に戻れます。

描画モードに移行したら以下の操作をすることでそれぞれの注釈を追加することが可能です。

- ・ Shift+マウスドラッグ：直線を描く
- ・ Ctrl+マウスドラッグ：四角形を描く
- ・ Tab+マウスドラッグ：楕円を描く
- ・ Ctrl+Shift+マウスドラッグ：マウスクリック始点に向けた矢印を描く
- ・ Tを押下：テキスト入力に切替え (左クリックで元の描画モードに戻る)

上記の注釈の色は、R (赤)、G (緑)、B (青)、Y (黄)、O (橙)、P (桃) キーでそれぞれ変更することも可能です。

補足として、Eキーで文字の消去、Ctrl+Zで直前操作の取り消しも可能であることを付け加えておきます。また、メモなどを残した画面を保存しておきたい場合は、Ctrl+Sで画面をファイルに保存 (PNG形式) することも可能です。

●休憩時間のカウントダウン

Ctrl+F3で画面が切り替わり、時間のカウントダウンが始まります。プレゼンテーションの途中に休憩を挟む場合の残り時間の表示に便利です。この時間はデフォルトでは10分となっていますが、タスクトレイのZoomItアイコンを操作してオプション設定を開く (ダブルクリック、またはシングルクリック後メニュー選択) ことで調整可能です。

今回のご紹介は以上とさせていただきます。

皆様に効果的に理解を進めて頂けるよう、我々インストラクターはインストラクションの内容や提供する資料の内容だけではなく、表現の仕方も工夫しております。
トレーニングの品質向上を意識しているCTCテクノロジーのトレーニングを今後ともよろしくお願い致します。

コースの詳細情報はこちら：

<http://www.school.ctc-g.co.jp/index.html>

コ | ラ | ム |

◆◆ 『スーパーエンジニアの独り言 第11回 “ライク・ア・ローリング・ストーン”』 ◆◆

先日、筆者周辺でJavaの例外処理の話題がありました。会話の際にすっかり忘れてしまっている事に気がつきました。使わない道具は錆びてしまいますね。今回は、忘却の彼方から記憶を引き戻すためJavaとRubyでの例外処理を比較して眺めてみることにします。

まず記述方法から。Javaの例外処理構文は“try”, “catch”, “finally”です。

```
try {
  // 例外が発生しそうな処理をここに書きます。
} catch (補足したい例外 e) {
  // 例外が発生した場合の対応ができます。メッセージ出力など。
} finally {
  // 後片付けなど最後に必ず実行したいこと。
}
```

Rubyの例外処理構文は“begin”, (“end”), “rescue”, “ensure”です。

```
begin
  # 例外が発生しそうな処理をここに書きます。
rescue 補足したい例外 => ex
  # 例外が発生した場合の対応ができます。メッセージ出力など。
ensure
  # 後片付けなど最後に必ず実行したいこと。
end
```

キーワードが違うだけで構文はかなり似ていることが分かります。
Rubyではrescue節の後に“else”という「例外が発生しなかった場合の対応」
を書くことも出来ます。

Javaで用意されている例外関連のスーパークラスは、Throwableクラスであり、サブクラスとして例外クラスのExceptionがあります。例外としてcatch節で補足するのは、通常Exceptionもしくはそのサブクラスを指定します。

Rubyで用意されている例外関連のスーパークラスは、Exceptionクラスであり、サブクラスとして例外クラスのStandardErrorがあります。例外としてrescue節で補足するのは通常StandardErrorまたはそのサブクラスを指定します。

例外を自分で作ることもできます。JavaはExceptionを継承し例外クラスを作成します。RubyはStandardErrorを継承し例外クラスを自作できます。
ライブラリ作成をされる方は、ライブラリ利用者に異常を知らせる手段として自作の例外クラスを送出することで、異常の通知が可能になります。
Javaではthrow、Rubyではraiseで例外を送出する記述が出来ます。

また、Javaのcatch節、Rubyのrescue節は、省略することが可能ですが、それでは例外を補足して対処することができませんので、catch(rescue)節を指定し予期される例外に対応するコードを記述するのが得策だと思います。
catch(rescue)節は複数指定できます。例外を捕まえましょう。

「転石苔を生ぜず」のことわざ通り、使っていればナイフは錆びないでしょうが、刻々と変化する周囲の状況で同じ道具を使い続けること自体が技術者にとっては困難な時代なのかと思われます。

冒頭の議題は例外処理でのfinally節での挙動についてだったのですが、紙面が尽きてしまいました。これは次回のお楽しみに。

■お問合せ・ご意見・ご感想は◆CTC教育サービス◆窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail: kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL: 03-5712-8701

- 外部委託について
弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社（CTC100%出資子会社）に委託しております。
 - 本メールマガジン編集・配信責任者
CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一
所在地：東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp
 - 個人情報保護方針
CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。
http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security
 - 配信中止及びお問合せ対応について
 - ・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。
<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>
 - ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
 - ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。
-